

2019年度(平成31・令和元年度)事業報告

運営に関する事項

(1) 理事会・評議員会の開催

- 第1回評議員会 5/9 評議員及び監事の選任について(定款第29条決議の省略による)
- 第1回理事会 6/7 平成30年度事業報告及び決算報告についてほか(ウイングス京都)
- 第2回評議員会 6/26 平成30年度事業報告及び決算報告についてほか(京都ガーデンホテル)
- 第2回理事会 12/3 予算の補正, 令和元年度上半期の進捗報告ほか(中央センター)
- 第3回理事会 3/10 令和2年度事業計画及び予算についてほか(ウイングス京都)
- 第3回評議員会 3/17 令和2年度事業計画及び予算についてほか(ウイングス京都)

(2) 人事交流

- (公財)京都市国際交流協会と8年目の人事交流になるが, 諸事情により休止とした。
- NPO 法人 TEDIC(宮城県石巻市)に2年間の契約で職員1名を出向。

(3) KES認証の継続

2008(平成20)年5月に受けたKES(ステップ1)の認証を継続(確認審査合格)し, 環境負荷の軽減を意識した法人・施設運営に努めた。

(4) ディーセントワークへの取り組み

- 全職員に対して, 2度目の働き方に関するアンケートを実施。結果を踏まえて, 所属長会で議論を行った。

I. 協会(本体)事業

京都市からの補助金及び協会自主財源を原資として以下のように実施した。

1. ネットワーク形成事業

若者の成長を支援する様々な団体や機関の活動が、有機的につながることを目的として下記に取り組んだ。

(1) 若者に関わる担い手育成

- ①ユースワーカー養成(基礎)講習会(8/10・11, 3/7・8)
- ②若者に関わるスタッフの機関合同研修として、他都市のユースセンター視察と実践交流を実施した。(10/11, 2/14)

(2) 若者に関わる機関・団体・人のネットワーク形成と連携を拡げる事業

①若者に関わる団体の交流・情報交換の場づくり

○若者に関わる団体や青少年グループの交流・情報交換会、はぐくみプランを踏まえた自身のグループ活動をふりかえる場をもった(2/24)

②関係行政機関・関係団体への協力(協力事業)

協会のもっている“資源”をもって、外部機関・団体との連携・協力を行った。

○行政機関、他団体に委員等を派遣した。(市関連/市教委関連/他公益団体関連)(主なもの)

- *京都市はぐくみ推進審議会(委員)
- *京都市子どもを共に育む市民憲章推進委員会(委員)
- *京都市児童生徒登校支援連携協議会委員
- *京都市多文化施策審議会(委員)
- *京都市HIV感染症対策有識者会議(委員)
- *エフエム京都放送番組組審議会(委員)
- *京都市児童館学童連盟(理事)
- *京都府レクリエーション協会評議員
- *チャイルドライン京都(共催・理事派遣)
- *未来をつくる若者オブ・ザ・イヤー選考委員会(委員)

③青少年育成・支援団体との事業共催・後援・協力

○各育成団体・外部機関・関係団体からの希望に応じて名義共催、後援した。

*対応してユースサービス/センターの広報等への協力をいただいた。

<共催事業>

事業名	主催
映画吹替ワークショップ	特定非営利活動法人キンダーフィルムフェスト・きょうと
事業全般(広報協力, 施設優先利用, 講師派遣, 事業アドバイス等)	特定非営利活動法人チャイルドライン京都
スキルアップ研修	同上
第19期受け手ボランティア養成講座	同上
受け手ボランティアインターン研修	同上
中京区制90周年記念事業「社会的企業について学び交流する事業」働くって何だろう?～地域企業や社会的企業の活動から「働くとは何か?」について考えよう～	京都市中京区役所(地域力推進室)

<後援事業>

事業名	主催
第9回AIDS文化フォーラムin京都	AIDS文化フォーラムin京都
京都やんちゃフェスタ2019	京都市(子ども若者はぐくみ局子ども若者未来部育成推進課)

<協力事業>

事業名	主催
事業協力(施設優先利用)	グループそのまま 京都BASIC
京都市・地域再犯防止推進モデル事業に係る調査(調査協力)	京都府立大学 公共政策学部 朝田佳尚
「子どものための映画づくりワークショップ(協力名義)	特定非営利活動法人キンダーフィルムフェスト・きょうと

施設優先利用)	
今の若者が「あったらいいな」と思える人・場所・経験(卒業論文)	大阪府立大学 教育福祉学類 河合梨湖
「元ひきこもり当事者との交流会(施設優先利用)	特定非営利活動法人 京都ARU
学習教室「縁-enishi-」2020年春	学習支援団体Apolon
発達障害当事者の居場所づくり(施設優先利用)	グループそのまま 京都BASIC
祇園祭ごみゼロ大作戦	祇園祭ごみゼロ大作戦実行委員会

2. 情報発信事業

若者や若者支援にかかわる団体・市民を対象として、その取り組みや関わる人・団体について情報の受発信に取り組んだ。

(1) 若者に関わる情報の受発信事業

○ボランティア情報の発信(紙媒体としては年1回の発行)

*ユースアクションプラン認証事業と連動させWEBでボランティア情報を発信した。

*大学等, ボランティアガイダンスへの参加・広報活動。

○広報誌「ユースサービス」の発行。

想定する読者は18歳以上の人。各事業所と連携した企画・取材を取り入れて記事内容の充実を図った。

第34号～第35号を発行(4,000部)し、関係団体や個人、学校、大学他公共施設・機関に配布した。

*第34号/9月号 特集「若者×余暇」 *第35号/1月号 特集「若者×ジモト」

3. 市民参加促進事業

青少年が「市民社会」の主体となる“市民”としての経験・学習の機会提供を目指す事業。シティズンシップ事業の開発、仕組みづくりに取り組んだ。

(1) シティズンシップ教育につながる事業の実施

○協会独自のシティズンシップ教育事業の開発・実施

*企画委員会シティズンシップタスクグループによる自主活動支援の事業整理と、その意義を伝えるツールづくりの検討に取り組んだ。

(2) ローカルユースカウンスル設置運営

○若者からの視点で継続的な政策提案や市政参加ができる仕組みづくりとして5月に設立、活動のサポートを行った。

*交通インフラ整備(市バス混雑緩和に向けたヒアリング調査や京都市の取り組みを学ぶ機会)

*他世代交流の場づくり(排除なく多様なコミュニティが交流できる場づくりの試行)

*広報・発信活動等

4. 新たな社会的ニーズに対応した事業の展開

新たな事業展開の機会をつかみ、社会的要請を先取りするため幅広い調査・研究活動、仕掛けに取り組んだ。

(1) 企画委員会で試行された企画や、調査研究や新たなニーズに対応する取組の具体化

2017年度から2018年度のタスクについて理事会に報告。今年度の取り組みについても提案した。

(2) 学校連携事業

○伏見工業高校(定時制)内での居場所カフェ開設のための会議と、「憩いの場」設置運営(6月より試行9月より本格実施)

<行事一覧>

事業名	実施期間	回数	参加者/のべ数	備考/実施場所等
ユースワーカー養成講習会	8月, 3月	2	22名	
ネットワーク形成事業/視察研修・実践交流	10月, 2月	2	40名	吹田市夢つながり未来館・尼崎市ユース交流センター
ネットワーク形成/団体交流会	2/24	1	18名(12団体)	
伏見工業高校校内居場所カフェ	9月～2月	13	54名/280名	伏見工業高校

子ども・若者ケアラー事例検討会	6月, 12月	2	参加者=48(のべ)	下京青少年活動センター中会議室B等
子ども・若者ケアラーセミクローズド報告会	8/4	1	参加者=9	小会議室B
子ども・若者ケアラーつどい	6月～2月	7	参加者=29(のべ)	和室等
子ども・若者ケアラープロジェクト会議	4月～2月	7	参加者=27(のべ)	小会議室A等

5. ユースサービスの普及、事業開発にかかる取り組み

(1) ユースワーカー養成・資格認定事業

① 基礎講習修了者を対象として資格取得コースを設置運営した(履修3名)

② ユースワーカー協議会の立ち上げとユースワークの基盤強化

他都市のユースワーク実践団体(5団体)とともにワーカーの職能団体を立ち上げた(7/1)。

<構成団体> (公財)さっぽろ青少年女性活動協会 / (公財)よこはまユース / NPO法人こうべユースネット
名古屋市青少年交流プラザユースクエア共同事業体 及び京都市ユースサービス協会

○名古屋(11/30, 12/1)・神戸(1/18・19)・尼崎(2/15・16)で養成講習会を開催した。

○ユースワーカーの研修素材として「ワークブック」を作成し講習・研修に活用した。

(2) インターン受入れ / ボランティア育成・研修事業

① 実習生 / インターンシップ受入れ・指導事業

大学コンソーシアム4名, 京都橋大学6名, 京都女子大学5名, 立命館大学5名

② ボランティア育成・研修会等の実施

協会事業全体にかかる説明会を年度初めに実施, 学習支援事業における全体研修を年3回実施した。

(3) 調査・研究事業

① 立命館大学との共同研究(ユースワーカー養成研究 / 若者学研究)

○定例研究会を開催し, ユースワークの課題や可能性について検討を進めた(3回実施)。

○若者学研究会を開催し, 若者自身による探求の場づくりを行った(6回実施)。

② 外部機関・団体・研究者等との共同研究

○「若者政策とユースワーク研究会」(法政大学平塚教授を代表とする)に参画した。

イギリスのユースワーカー / ユースワーク研究者を招いた国際セミナー京都会場の企画運営を担った。

○「子ども若者支援専門職養成研究会」(奈良教育大学生田教授を代表とする)に参画した。

③ 企画委員会と協働して各分野における事業の質的な深化・展開

実績なし

④ 社会貢献教育事業の開発・実施

○京都すばる高校「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」のコンソーシアムに参画した。

○同校の3年生「課題研究」にて社会貢献教育プログラムを実施した(1/10)。

⑤ ヤングケアラー(子ども若者ケアラー)問題について外部関係者とのプロジェクトの事務局を担う。

○ヤングケアラー(協会では子ども若者ケアラーの言葉を使う)事業プロジェクト

*10代・20代で家族等のケアの主要な担い手となっているケアラー(=子ども若者ケアラー)を巡る問題について, 外部関係者とのプロジェクトの事務局を担い, 事例検討会, 当事者グループの運営サポートを行った。

<プロジェクト> 代表 斎藤真緒氏(協会企画委員)・濱島淑恵氏(大阪歯科大学准教授)

(4) 戦略的な広報の取り組み(広報室の運営, 講師派遣, 賛助会員ほか)

① 広報室を核として, 協会及びユースサービスの「ファンを増やす」取り組みを進める。

*若者向け広報: オリジナルキャラクター作成と Twitter による広報

*一般・支援者向け広報: プレスリリースの発行

*職員向け: 広報研修の実施

② 広報の全体調整を行う。

広報データの更新・管理 / 協会広報物の全体調整

③講師派遣事業

○外部機関・施設等からの依頼に応じて、企画提供や講師派遣を行った。

内容・テーマ	派遣先・依頼元等	実施日
コミュニケーション・ワークショップ	龍谷大学政策学部	2019. 4. 12
カルティベートコース新入生向けプログラム 「仲間づくり」ワークショップ	花園高校	2019. 4. 16
「山科の若者の育ちを支える取組み」	京都橘大学	2019. 5. 9
生涯教育実践研究Ⅱ	大阪教育大学	2019. 5. 21
社会貢献教育の進め方について	(公社) 武生青年会議所	2019. 5. 24
若者文化発信事業から、ユースサービスを考える	京都洛北ロータリークラブ	2019. 5. 30
「社会貢献教育とファンドレイジングの最前線」	日本NPO学会	2019. 6. 1
子ども・若者支援の取組み	右京民生委員勉強会	2019. 6. 6
社会教育演習 「青少年社会教育施設でのプログラム企画」グループ企画・発表	佛教大学	2019. 6. 13 2019. 6. 20 2019. 11. 5 2019. 11. 12
身近な地域でこどもの人権を保障する「ユースワーク」研修会	NPO法人スマイルひろば	2019. 7. 5
ユースサービス概論「若者の社会参加」	立命館大学	2019. 9. 4
「未来はこどもが創る社会貢献教育プログラム」話題提供とパネルディスカッション	日本ファンドレイジング協会	2019. 9. 14
社会に貢献するワークショップ	灘中学校	2019. 10. 3
「性教育講座」保護者対象 「性教育ワークショップ」生徒対象	兵庫県立神出学園	2019. 10. 14
これからの青少年育成・支援そして青少年活動を考えるフォーラム	NPO法人こうべユースネット	2019. 10. 27
子ども・若者支援の取組み	出前トーク補助 only oneの会	2019. 11. 7
神川中学校 思春期教室	伏見区役所はぐくみ室	2019. 11. 8
劇場の学校プロジェクト 「舞台芸術の未来を担う人々のための研究会」	ロームシアター京都	2019. 11. 19
社会福祉実習Ⅳ「若者支援の現場から関係づくり、場づくりの意義を考える」グループワーク	同志社大学	2019. 11. 22
「若者とアート（表現活動）」	立命館大学大学院	2019. 11. 30
「社会教育実習の学びと活用について」	全国社会教育職員養成研究連絡協議会	2019. 11. 30
日本のユースワークについて	こうべユースネット	2019. 12. 2
子ども・若者支援の取組み	中京区ふれあいネットワーク	2019. 12. 4
子ども・若者支援の取組み	南区保健福祉センター	2019. 12. 9 2019. 12. 23
福祉とケアの倫理	佛教大学	2020. 1. 7 2020. 1. 16
特別講演会「居場所」を求める子どもたち	京都教育大学STUDY ONE	2020. 1. 22
「地方自治と子ども施策」全国自治体シンポジウム	全国自治体シンポジウム実行委員会	2020. 1. 26
「国際セミナー『生きづらさを抱える若者たち』日英の専門家の対話」	大阪社会福祉協議会及び関西学院大学	2020. 2. 23
「下京区子育て講演会」	下京区役所	2020. 3. 3
子ども若者の地域における居場所づくりの可能性	「大学・事業者・住民連携によるニュータウンまちづくり推進事業を中心とした実践的研究」ニュータウン研究会	2020. 3. 5

④賛助会員制度の運用

⑤ユースサービスを伝えるツール作成

○Next10について発信用のとりまとめを行った。

6. ディーセントな組織づくり 事業開発の取り組み

(1) ディーセントな組織づくり

○アクションプラン

全職員に向けた働き方に関してのアンケート及びストレスチェックの結果から、職場内のコミュニケーションに改善の必要性が認められた。これについて所属長会で議論を行い、各事業所で風通しの良いチームを作ること、それを行うには所属長が率先して行う事が必要であると結論づけた。来年度目標としては「事業を整理して余白時間を作ること」、「複数名で事業運営を行うこと」、「事業後は振り返りの時間を確保し、現場から学びを得る場面を多く持つこと」を掲げた。

○メンター制度の導入

新規採用職員5名に対し、ユースワーカーとしての業務を行う上で抱える葛藤や直面する課題、迷い等相談できる体制を整えた。新人チーフについては所属長が担当し必要であればメンターをつけるとしていたが、機能しなかった。

○コンサルテーション・スーパーバイズの運用

職員が受けられる制度を年間で運用した。

* 山本智也氏(大阪成蹊大学教授)に委嘱した。

* 年間14回実施。

(2) 職員研修の組織的・計画的運営(研修室による運営)

年間研修計画の設定と、それに基づいた研修を実施した。

○新規採用職員研修の実施/対象5名

○若手(2~4年目)職員研修の実施(単位制を導入し内外の講師からテーマを設定した。)/対象27名

○外部研修の希望を集約し研修の機会を提供した(学会, キャリアコンサルタント研修等)

○普通救命講習(AED研修)の実施(12/3)

○職員全員が参加する全体研修を開催した(6/12 下京青少年活動センターにて開催)

職員間のコミュニケーション促進を企図し、「まちロゲイニング」のポイントづくりを行った。

(3) 事業評価の実施

○事業評価のサイクルを業務の中に位置づけた。

○「外部評価者」の参画を得て評価会を行い、事業所間・ワーカー間の相互評価とともに外部の視点も含めた実践の価値づけの場をもった。

7. 環境負荷の少ない団体・施設運営

(1) KES認証の維持

KES 認証を生かした施設運営を行うとともに、若者や地域への啓発的活動を進めた。

○節電, 節水, 紙の節減等, 職員への徹底と利用者への呼びかけ

○環境改善目標の実現

* 環境意識の充実と外部発信(毎月1回以上)/センター周辺の清掃(毎月1回)

* 環境啓発事業の実施

○祇園祭ごみゼロ大作戦に協力

Ⅱ. 青少年活動センター指定管理業務

1. センター協同事業

(1) 青少年交流促進・多世代交流事業(青少年と青少年に関わる多世代が交流できる場づくり)

①ユースシンポジウム「学習支援事業の現在地～10年目の成果とこれからを考える～」

2019年10月6日(日) 下京青少年活動センターにて実施 参加者数155名

全体会、4つの分科会、クロージングの構成で、事業が始まった経緯やこれまでかかわってきたボランティアや関係者たちが言葉を寄せながら現在のありようを多角的に見つめる機会とした。

(2) 若者文化発信事業(センター協同事業)【再掲】

「ユスカル！」 ※詳細は東山センターに掲載

(3) 利用促進・グループ登録の全体調整

* 青少年グループ登録=111団体、育成登録団体=120団体

* 7センターパンフレットを一新した。

(4) センターのないエリアにおけるアウトリーチ

① 機関連携

今後の展開に向けて、センターのないエリアにおいて、区役所・支所をはじめとした機関へ事業紹介、かかわっている若者の状況等のヒアリングを行った。

② 出張ユースワークの試行と整備

○若者が地域へ出向き、活動の場や視野がひろがる取り組みを行う。

○資源の少ないエリアにおいて、居場所や活動の場づくり

* ニュータウン(洛西・向島)エリアでの若者・地域のニーズに応えた拠点づくり事業を実施する。

○プログラム型事業の試行。

* 花園高校カルティベートコース新入生向けプログラム

* 社会的養護自立支援事業の訪問講習会において、ユースワーカーが協同でプログラムにあたった。

2. 子ども・若者総合支援事業(指定支援機関受託業務)

子ども・若者支援地域協議会において、支援の主導的役割を担う指定支援機関として、関係機関と連携のもと社会生活を円滑に営む上での困難を有する子ども・若者の社会的自立に向けた総合的な支援に取り組んだ。また、中央青少年活動センターの子ども・若者総合相談窓口と子ども・若者支援室の機能を以て、ひきこもり地域支援センターとして位置づけられている。

(1) 個別ケース支援(支援対象者等に対する相談、助言、指導及び支援の進行管理)

総合相談窓口や関係機関からリファーされた支援地域協議会による支援を必要とする対象者に対して、支援コーディネーターが相談、助言、支援のコーディネート及び進行管理等を実施。対象者の状況に応じて、家庭訪問や社会資源への同行等、アウトリーチの方法も用いて支援を行った。

○支援ケースは96ケース(前年度からの継続:75ケース、新規:21ケース)。昨年度から新規は横ばい、総数が微減。終結ケースは20ケース。成果的終結率は70.0%だった。

○支援を始めて6ヶ月経過した20ケース中、6ケースが状態の変化が見られる。状態変化の割合は43.5%から30.0%に減少。親のみの相談ではすぐに変化が現れない点や、本人の行動に変化が見られてもレベルに反映されない点があげられる。

○支援ケースの66.6%がひきこもり区分であり、依然として高い数値。新規ケースの内、本人に出会えない状態から始まるケースが28.5%だった。

○本人支援のためのアウトリーチは、33ケース115回(うち家庭訪問は5ケース33回)実施。昨年度に定期的に訪問していたケースが終結したため減少している。

(2) 支援地域協議会との連携

必要に応じて、個別ケース検討会議を実施するほか、地域協議会に設置された課題別検討部会(ひきこもり支援チーム)における検討等を通して、構成機関と連携しながら、支援を行った。

○個別ケース検討会議を53ケース、延べ454回実施(前年度は53ケース、延べ435回)。ケース数は横ばいだが、実施回数は増加し、関係機関との協議、連携が増えている。

○代表者・実務者会議を2回実施(1回は新型コロナウイルスへの対策のため書面で報告)。課題別検討部会を3回実施し、事例検討を行った。

(3) NPO 等民間団体の子ども・若者支援促進事業の実施 及び 関係機関・団体との連携

NPO 等民間団体の支援事業に対して、助成を通じ支援活動を促進するとともに、指定支援機関と NPO 等民間団体、NPO 等民間団体相互の連携・協力の機会を作った。

○8団体の事業について採択、補助を行う。今年度は二次募集を行い、1団体採択。

京都 ARU/京都教育サポートセンター/恒河沙母親の会/エイドネット cafe/若者と家族のライフプランを考える会/京都老人福祉協会 就労継続支援 A 型 ワークパートナー YUI/東山区「不登校・ひきこもりを考える親の会」「シオンの家」/コミュニティ・スペース sacula

○「講演会+NPO 活動紹介・交流会」(タイトル:「ひきこもり ~みつめなおす家族のカタチ~」, 講師:団 士郎氏)を実施(2019年11月24日)。定員180名を上回る209名が参加。

交流会には助成団体8団体に加え、京都市社会福祉協議会が出席。講演会、交流会とも非常に好評で、市民と NPO 等民間団体、NPO 団体同士の交流や接点をつくる機会となった。

(4) 協会内部資源の活用・連携

子ども・若者総合相談リンク機関として位置づけられている「若者サポートステーション」,「青少年活動センター」と、総合相談窓口・支援室とが密接に連携し、子ども・若者の総合的な支援に努めている。

○スーパーバイズ(総合相談窓口:12回, 支援室:10回)をオープン化。各保健福祉センターの統括保健師が出席し、若者支援の理解促進と連携を図った。

○若者サポートステーション, 青少年活動センターからの紹介による子ども・若者, 家族, 機関の相談:15件

○青少年活動センター, 若者サポートステーションのユースワーカーからの相談:22件

○相談窓口における, 若者サポートステーション・青少年活動センターへの紹介:18件

○支援ケースにおける, 青少年活動センター・若者サポートステーションとの連携数:29ケース, 延163回

(5) ピアサポーター養成・派遣事業

昨年度に引き続き、支援コーディネーターとともに、対象となる子ども・若者の社会的自立に向けた支援に協力する「ピアサポーター」の養成派遣を実施した。

○ひきこもり支援専門委員会において、他機関・団体とともに現状についての情報共有、ピアサポーター養成プログラム実施、ピアサポーターの派遣について検討した。

○ピアサポーターミーティングを月1回継続。活動のふり返りや検討、ニーズに応えた形での研修を行った。

○ミニグループ活動(モノタメ:ものは試しの略)を月1回実施。今年度はピアサポーターの考案による、予めテーマを設定したモノタメを実施し、相談者のコミュニケーションが促進された。

○ピアサポーターの派遣は7ケース, 延べ33回(ケース数・回数ともに増加)

(6) 子ども・若者総合支援機能の発信

視察対応、外部での講演等の機会を通じて、子ども・若者総合支援とユースサービス協会全体の機能について広く発信に努めた。

○子ども・若者総合支援に関する視察・調査対応:8件(前年度:7件)

○外部発表・出展等:24件(前年度:29件)

(7) 京都市ユースアクションプラン認証事業

青少年育成団体や NPO 団体等が実施する、子どもから大人へと成長する青少年を支援する取組に対して、「京都市ユースアクションプラン」の主旨に基づくものを京都市が認証し、情報の集約・発信を通じた活動の促進、青少年への情報提供を行った。

○ユースアクションプランの趣旨に合致する取り組みの事業申請募集を行った(認証事業127件)。

○ユースアクションイベントガイド夏休み号(30,000部, 約350か所に配布)と、ボランティア特集号(10,000部, 500か所に配布)を発行した。

○WEB版のユースアクションプランイベントガイドを毎月更新し発信した。

(8) 総合相談窓口事業(青少年活動センター指定管理業務)

「子ども・若者育成支援推進法」に規定されるワンストップ窓口として、「子ども・若者総合相談窓口」を中央青少年活動センター内に設置しており、社会生活を円滑に営む上での困難を有する子ども・若者やその家族からの相談に対応した。また、平成25年度より、「ひきこもり地域支援センター」の相談窓口としても対応している。

○新規相談は、701件。前年度(539件)より大幅に増加。

○上記新規相談のうち、本人からの相談は191件(27.2%)であった。相談内容は「ひきこもり」が37.2%と最も多く、その他にも多様な相談を受けている。

○年代別では、10代が20.5%(前年度:29.5%), 20代が45.2%(前年度:47.3%), 30代が24.7%(前年度:16.7%), 40代が3.6%(前年度:2.2%)であった。

3. 中学生学習支援受託事業（京都市子ども若者はぐくみ局子ども家庭支援課）

経済的な理由等で家庭での学習環境が整いにくい中学生等を対象とした学習支援事業を実施。大学生を中心としたボランティアによる1対1の学習サポートにあたった。場づくりや運営が安定するよう、青少年活動センター以外の拠点についてはコーディネーターを配置した。10年目を記念してクラウドファンディングにこれまでの参加者や関係者からの作文や拠点ごとの寄せ書きを集めた文集「支えたい、一人ひとりのI wish」を発行した。

(1) 実施回数＝延べ878回

	登録実数	延べ参加者数	夏休み学習会(延べ)
学習者	329人	4,161人	55人
ボランティア	300人	4,904人	63人

<各地域での実施状況>

Co.=コーディネーター Vo.=ボランティア

実施場所	参加者 (登録者)	ボランティア 及びスタッフ	実施曜日	実施の枠組み
北青少年活動センター	19	27	毎週木曜日	BBS会の協力
北週2回目(そらいろチルドレン)	1	2	毎週土曜日	Co:NPO法人代表
伏見青少年活動センター	29	24	毎週木曜日 下半期	単独運営
山科青少年活動センター	32	22	毎週金曜日	単独運営
南青少年活動センター	21	19	毎週木曜日	単独運営
洛西(洛西センタービル)	25	13	毎週金曜日	下京センターがボランティアをコーディネート。Co:地域団体に依頼
中央青少年活動センター	24	18	毎週金曜日 下半期	学習支援団体Apolonの協力
小栗栖(こどものひろば事務所)	3	10	毎週火曜日	山科醍醐こどものひろばの協力
右京(山ノ内社会福祉会館)	19	22	毎週木曜日	花園大学社会福祉学部の協力
※野菊荘の会場提供協力			毎週水曜日	Co:花園大学教員
左京(左京区役所)	27	12	毎週金曜日	京都ノートルダム女子大学他の協力 Co:同志社大学 院生
深草(龍谷大学町家キャンパス)	21	30	毎週木曜日	龍谷大学の協力 Co:龍谷大学 学生2名
西京(西京児童館)	11	9	毎週金曜日	京都市社会福祉協議会の協力 (会場借用)
東山青少年活動センター	20	28	毎週金曜日	地域団体と協力
醍醐(カフェ「トトハウス」)	4	10	毎週木曜日	山科醍醐こどものひろばの協力
下京青少年活動センター	10	14	毎週月曜日	単独運営
上京(上京区役所)	23	18	毎週月曜日	単独運営 Co:同志社大学卒業生
右京南部(京都光華女子大学)	9	7	毎週木曜日	京都光華女子大学の協力 Co:NPO法人代表
向島(城南保育園)	15	7	毎週土曜日	伏見区社会福祉協議会の協力 Co:京都大学 院生
醍醐支所	16	10	毎週月曜日	支所内プロジェクト 山科醍醐こどものひろばの協力

* 青少年活動センターで実施する学習会の運営詳細については、各青少年活動センターにおいて記載。

* 中学生の受験が近づくと秋以降、ニーズに対応して、いくつかの学習会で他の曜日にも実施した。

(2) 「夏休み学習会」の実施

長期休暇中の学習機会と居場所として実施した。

○市内5拠点、計12日間実施。 ※台風で1日中止となった。

(3) ボランティア説明会

計5回ボランティア説明会を実施した。また、説明会以外に個別でのボランティア説明も対応し、各拠点につないだ。年間通じて、ポータルサイト等からの問い合わせが断続的にあった。

(4) ボランティア研修・交流会

各回の振り返りを重視しそれぞれの拠点で毎回実施しているが、それ以外にも拠点毎に研修や交流会を引き続き企画実施した。

拠点を越えた全体の研修と交流会については、コーディネーターと学習会ボランティアを対象に、今後の活動や自身のスキルアップとなるような研修と、拠点を越えた新たな仲間との出会い交流ができる機会として年に3回実施した。

○第1回「中学生と関わる時に知っておきたい京都市の受験制度のこと」(9/10, 15名)

○第2回「中学生と関わる時に知っておきたいセクマイのこと」(11/10, 22名)

○第3回「中学生と関わる時に知っておきたい発達凸凹(障害)のこと」(2/2, 17名)

京都市外出身のボランティアスタッフも多い中で、「京都市の受験制度についてスケジュール感を掴めてよかった」という声があったほか、セクシャルマイノリティや発達凸凹についての研修では参加者同士が活発に意見交換を行い、講師ともやりとりするなかで「自分の“あたりまえ”を見直す機会になった」との声があった。

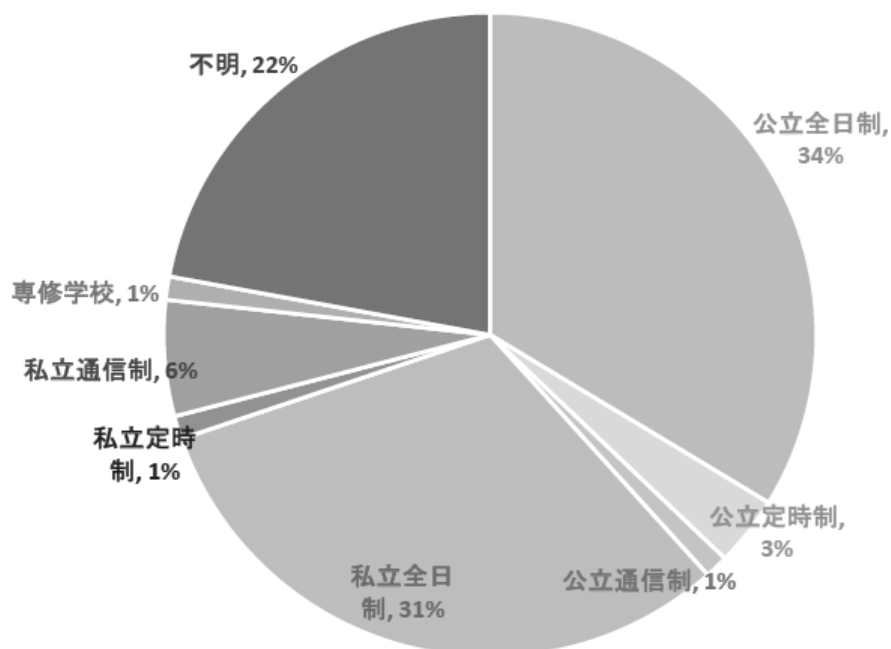
(5) コーディネーター担当者会

新規担当者含め、合同会議を年2回開催。それぞれの運営状況の共有のほか、運営の基礎やルール確認、成果や課題の把握、ボランティアスタッフ募集パンフレットの文言・表現や研修案を出し合う等、次年度に向けた意見交換を行った。

* 中学3年生進学先について

中学3年生の登録86名のうち、不参加等で連絡がとれない19名を除き全員の進路が決定した。

2019(令和元年度) 中学3年生進学先 割合



4. 社会的養護自立支援事業に係る生活相談等支援事業の取り組み

児童養護施設等，社会的養護のもとで暮らしてきた若者たちの退所後・措置解除後の生活を支えるため，ユースサービスの強みを生かした事業に取り組んだ。

(1) 研修の実施に関すること

○自立支援コーディネーター及び京都市ユースサービス協会職員対象

第1回 6/18(火) 16名

- ・自立支援コーディネーターの業務確認(京都市子ども家庭支援課)
- ・アフターケア全国ネットワークえんじゅについて伝達研修(協会)
- ・昨年度「社会的養護自立支援事業生活相談等事業」報告・ふりかえり
- ・今年度の事業計画について(協議)

第2回 9/20(火) 14名

- ・セクシュアルヘルス講座(若者と性，施設での性教育等)
- ・施設での性に関する困りごと相談

【講師:思春期保健相談士 あかた ちかこさん】

第3回 12/19(木) 17名

- ・視察研修 視察先:NPO法人四つ葉のクローバー(滋賀県)

【講師:遠城孝幸さん】

- ・立ち上げた経緯，施設見学，実際に取り組まれていること，支援事例他

第4回 2/20(木) 21名

- ・改めて見つめなおす，社会的養護自立支援事業(概説)
- ・他都市の事例(共有)
- ・各施設の実際(ケース共有と意見交換)
- ・次年度に向けて

○協会職員対象 10/24 10名(+市職員1名)

1. 当事者の声に学ぶ【ゲスト:田中 麗華さん】

- ・児童養護施設での生活について，退所後の実際，質疑応答(座談会)

2. 訪問講習について

- ・報告，デモンストレーション

(2) 相談支援に関すること

○対象者からの相談:31件99回 ※退所者・措置解除後であることがわかった件数のみ計上した。

内容:人間関係，学校生活，帰化，お金，結婚，就労・職場適応，親子・家族関係，虐待，心身の健康，生き方，余暇の過ごし方，居場所等。

○入所中・関係機関からの相談

内容:他都市からの転入，帰化，居場所，就労，生き方，職場適応，余暇の過ごし方，お金，障害等。

(3) 交流会の運営及び実施に関すること

参加者同士がともに食事をしながら仲間と語り，安心して過ごせる場の運営を行った。

事業名 : いこいーな

日程 : 4月から3月までの毎月第3土曜日17時~21時 合計12回

場所 : 京都市南青少年活動センター

内容 : 参加者同士がともに食事をしながら仲間と語り，安心して過ごせる場の運営。準備，片付けもプログラムの一環として位置づけ，共同作業，居場所としての場づくりを展開した。

参加者数 : 延べ66名(内訳:退所者52名，入所中0名，施設職員等関係者14名)

(4) 入所児童向け講習会に関すること

○講演会:退所後について語り合おう

日時 4/20(土)14時~16時

場所 京都市南青少年活動センター

ゲスト 西坂來人さん(映像作家)，中西健さん(シンガーソングライター)

参加 9名(退所者4名，児童養護施設職員・アフターケア事業関係者5名)

内容 ゲストスピーチ(当事者としての経験談)，映画鑑賞，ミニライブ，しゃべり場

○訪問講習会

- テ ー マ 「お金」「はたらく」「性」「他」より、施設から希望をもらい、施設訪問をして実施した。
- 対 象 入所中の15歳以上
- 内 容 チェックイン(カードトーク)、テーマに合わせたワークと対話
- ・1/31 積慶園 【性】 参加2名、職員2名、訪問職員2名
 - ・2/9 迦陵園 【性】 参加2名、職員2名、訪問職員3名
 - ・3/6 平安徳義会【はたらく】 参加1名、職員1名、訪問職員2名
 - ・3/17 つばさ園【はたらく】 参加2名、職員1名、訪問職員2名(内1名市職)
 - ・3/19 平安養育院【性】 参加9名、職員3名、訪問職員4名(内1名市職)、講師1名
 - ・3/23 和敬学園【お金】 参加5名、職員3名、訪問職員5名(内1名市職)
 - ・ - 聖嬰会 ※ 新型コロナウイルス感染症予防のため未実施

(5) 関係機関との連絡調整に関すること

○事業運営にあたり必要な関係機関との調整、関係づくりを行った。

- ・児童養護施設長会(挨拶・報告)
- ・アフターケア「メヌエット」(情報交換)
- ・全国ネットワーク「えんじゅ」への団体参加(情報交換・研修参加)
- ・京都市児童相談所
- ・京都市里親養育会
- ・京都府ユースアシスト
- ・アフターケア相談所ゆずりは(相談・訪問)
- ・エイドネットCafe(個別支援)
- ・おおいた青少年相談所(情報共有)

○協会を活かした機関連携

- ・学習支援事業:施設関係者2名継続参加,その他問い合わせあり。
- ・青少年活動センター事業への参加:入所者1名
- ・施設職員との情報共有のなかで「施設外での青少年の活動を通じた変化や成長を知ることができてよかった。」という声をもらえた。

Ⅱ-1 中央青少年活動センター

全体の動向

若者と地域の間立つ「ハブ」としてのセンターを目指す3か年計画の2年目となった。より具体的に地域と若者をつなげるために、事業としての「HUB」を実施した。中京青少年活動センターから全市域の中心を担う中央青少年活動センターに名称を新たに、全市域へユースサービス・青少年活動センター機能をどう展開していくのか事業整理をしながら検討する1年となった。まずは中京区内のつながりづくりを継続し、オープンデーは前年度以上に地域の方々と出店や広報協力につながることができた。年間97,000人以上の利用があったが、新型コロナウイルス感染症に伴うジムの閉鎖や活動見送りが影響し、昨年度比-7,878人となった。

1. 若者の社会参加の促進

(1) 若者のニーズを社会化する事業「HUB」

- ニーズを確実に掴み実施するため、チーム全体で青少年への積極的な関わりを行いながらニーズを集めていくと同時に、青少年ボランティアと協力し京都市の若者のニーズ調査を行った。
 - *京都市内の駐輪場事情(掲示啓発)
 - *コミュニケーションについて語る会 ※感染拡大防止のため中止

2. 居場所づくりを支援する

(1) 街中コミュニティ

- 月2回平日日中、コミュニケーションに苦手意識を持つ参加者10名程度がテーマトークをし、活動を参加者同士で決めて過ごす場をつくった。子ども・若者支援室や京都若者サポートステーションと、運営や参加者の状況共有について日常的な連携をはかった。卒会者が多く、2年参加の入れ替えの多い年度だった。

(2) 交流プログラム「CONTACT」

- 青少年同士、ワーカーと青少年が交流できるテーマを設定した企画参加型プログラムを年6回実施。
- 気軽に参加ができ、さまざまな青少年の思いや価値観が可視化される掲示参加型プログラムを年14回実施。
- 気軽にボランティア活動に触れ、グループ活動を通して他者と交流し、楽しさ・やりがい・役立ち感を得られる活動として清掃活動やロビー企画のボランティア『One☆Chan』等を通年で実施した。
- 地域若者サポーター(以下、サポーター)が中心となって運営する交流カフェ「赤れんがCafe」の実施を通して、青少年が居心地の良さを感じたり、サポーター等と出会ったりできる場を提供。多世代の人と交流できる場を毎月1回持った。

3. 自主活動を支援する・担い手育成に関わる事業

(1) 自主活動応援事業「CHEER」

- 青少年グループや個人による、自身の活動や若者の社会的な課題をセンターを利用して広めたい、3時間以上施設を利用したい、グループ運営等についてアドバイスを受けたらといったニーズに応える形で下記の事項を行った。
 - *新幹部のしゃべり場ファシリテーション
 - *立命館ミュージカルサークル公演による長時間利用の依頼
 - *ロビーワーク体験
 - *「題名のない女子会」によるイベントへのロビーの利用の依頼
 - *「模擬国連紛争和平プロセス研究会」による長時間利用の依頼
 - *ネイティブ英語を活かした交流

(1) インターンや社会教育実習等の受け入れ

- 京都光華女子中学校からの職場体験2名、立命館大学からのインターン生を受け入れた。

4. 地域交流・連携・参画に関わる事業

(1) オープンデー

- 中央青少年活動センターの利用者とセンター周辺地域の住民や関係機関を対象に、「若者と地域をつなぐ」ことを目的としたイベントを実施した。専門学校やはぐくみネットワーク等の企画参加があった。

(2) 中京区及び全市域の団体・機関との連携事業

- はぐくみネットワークへの参加、朱雀中学校でのふれあいトークにも参加した。その他日彰学区の清掃活動や区社会福祉協議会、ウイングス京都等との連携をもった。

(3) 育成委員会の開催

- 3月実施予定だったが、新型コロナウイルス感染症対策のため未実施となった。

5. 相談・支援の取組

(1) 相談事業

○ワーカーとしてかかわる人数も増え、それぞれの個性を發揮されるかわり・相談があった。一方で、所内S Vやワーカー自身の力量をつけていくための省察機会が十分にはとれなかった。

(2) 学習支援事業「かけはし」

○学習支援サークル Apolon による運営協力のもと、学習会を実施した。これまでの学習者がボランティアになるなど世代交代、活動の循環の年度であった。

6. 利用促進・発信・広報に関わる事業

(1) 利用促進事業

○自習室とフリータイムを設置。自習室はニーズが高く中高生や大学受験生、公務員試験等の勉強に利用する若者が多かった。フリータイムは広報課題もあり活発な利用につながらなかった。

(2) トレーニングジム運営(トレーニングジムガイダンス)

○毎月2回、ジムアドバイザーの協力を得て、ジムの安全に使えるよう講習をおこなった。新型コロナウイルス感染症の影響を受け、2月末より閉鎖、3月のガイダンスは中止とした。

(3) 広報活動

○中央青少年活動センターを知ってもらうために、紙面やSNSを使って施設や事業の情報を発信した。

○HPやSNSを通じた事業周知と報告の発信、センターだよりを刊行し、近隣中学校、高校を1校ずつ訪問を行った。

7. 少年非行の解決・軽減に向けた取り組み

(1) ユースアシスト(京都府との連携事業)

○京都府青少年課が実施している「少年の立ち直り支援事業」(ユースアシスト)に協力する。

○定期的な学習支援や面談のための場所提供を行った。

<行事一覧>

事業名	実施期間	回数	参加者／のべ数	実施場所等
ニーズ発掘事業HUB'	通年	20	ボランティア=6/28 アンケート参加=113(のべ)	小会議室B等
活動応援事業CHEER	通年	6	206(のべ)	ロビー等
交流プログラムCONTACT	通年	37	1045(のべ)	ロビー等
参加型ロビープログラム	通年	8	74(のべ)	ロビー
掲示参加企画	通年	14	670(のべ)	ロビー
One☆Chan(1DAYボランティア)	通年	15	ボランティア=76(のべ) 企画参加者=301(のべ)	ロビー、センター 周辺等
街中コミュニティ	第2・4金曜日	24	参加者=17/200 ボランティア=2/10	和室等
赤レンガCafe	第3土曜日	11	130(のべ)	ロビー等
若者のためのフリースペース	通年		自習室:2, 323(のべ) フリータイム:76(のべ)	和室, 中会議室, 小会議室A・B, 大会議室
トレーニングジムガイダンス	毎月第2日曜・第4土曜日	22	参加者=349(のべ) ボランティア=6/28	トレーニングジム
かけはし	毎週木曜日 11月より毎週火・木曜日	62	学習者=23/359 ボランティア=18/592	中会議室
オープンデー	12/1 前日準備:11/30	2	参加者=644 ボランティア=41	ロビー等

Ⅱ-2. 北青少年活動センター

全体の動向

年間利用者数は49,728名となり、2018年度と比べて349名増加した。増加の背景には、自習室を利用する中高生・浪人生の部屋利用やロビープログラムを多く実施したこと、育成団体・一般利用者の部屋利用がある。

1. 自然体験・環境学習事業(センター固有テーマ事業)

(1) こども自然・くらし体験クラブ

○毎週月曜日、ボランティアとミーティングを行い、北区周辺で子どもを対象とした自然体験プログラムを実施した。ボランティアの世代交代があり、運営が安定しないことがあった。来年度は、まず若者が自然を体験できるようなプログラムを実施する。

(2) 環境負荷の少ない施設運営と啓発

○KESの取り組みの一環として、雑紙の回収、節電・節水は掲示による啓発を行った。また、分別について、利用者に対していつでもアドバイスできるようにゴミ箱を受付前に移動させた。

2. 居場所づくり支援事業

(1) ごぶさた

○コミュニケーションが苦手等、何らかの課題を感じている青少年を対象に、料理やレクリエーション等のプログラムを実施した。新規参加者の少なさが課題であったが、近隣大学の学生相談室に直接チラシを持っていく等、広報先を増やすことによって新たに9名の参加があった。(昨年度2名)

(2) 卓球フリータイム

○9のつく日に実施。開催曜日に変化することで、多様な属性の青少年が参加した。ワーカーと地域若者サポーターの働きかけにより、交流が生まれた。

3. 担い手育成に関わる事業

(1) 自主活動支援事業

○実施には至らないケースもあるが、関係を構築できている若者から「こんなことがしてみたい」という声が寄せられ、ダンス教室や勉強会等が実現された。

4. 地域交流・連携・参画に関わる事業

(1) 地域で始めるボランティア

○地域の環境団体(日本環境保護国際交流会)と清掃活動、北区周辺の地域イベントへのブース出展を実施した。清掃、イベント共に単発参加者が多く、年代も中学生～社会人までさまざまであった。応募システムを整理したことにより、事務処理が減り、その分多くの青少年に参加してもらえるようになった。

(2) サンタクロース・プロジェクト

○クリスマスイブの夜に、青少年がサンタやトナカイに扮して、保護者から事前に預かったプレゼントとパフォーマンスを届けた。各家庭とボランティアの満足度はとても高く、『また応募したい』『参加したい』等の声があった。

(3) 北コミまつり(センター利用団体、地域団体との協力事業)

○参加者同士が交流できるお祭りを目指して、障がい者も含めた「地域」をキーワードに、企画を進めた。いままでは関わりのなかった団体にも声掛けし、新たなつながりをつくった。

(4) つながるワークショップ(北区役所との連携事業)

○北区役所主催のまちづくり事業(ワークショップ)の企画・運営を、関係する機関と協働して行った。

(5) 北区学生×地域応援団(北区社会福祉協議会、大学ボランティアセンターと連携)

○北区内の4大学(京産大、立命館大、佛教大、大谷大)と、北区社協、北区まちづくりアドバイザー、北青少年活動センターの組織間の関係性づくりを行うため、定期的に情報交換会を実施した。

(6) 北区人づくりネットワーク(教育委員会との協力事業)

○1/24(金)北はぐくみ「ふれあいトーク」@加茂川中学への協力を行った。

(7) 運営協力会

○6月に総会を実施した。

5. 相談・支援の取組 ※就労支援, 学習支援事業含む

(1) 相談事業

○様々な困難を抱える若者の継続相談があり, それらに対する支援を模索するために, ワーカー同士で相談内容を共有する機会を設けた。

(2) 就労支援事業「チャレンジ・インターン」(京都若者サポートステーションとの連携事業)

○就労に対して, 不安を抱える未就労者がセンター開館業務を通して, 生活のリズムが整い, 小さな経験を積み重ねることができた。働くことへの自信につながるような場の提供が行えた。

(3) 北・上京中学生学習会(学習支援受託事業) ※再掲

○生活保護, 貧困家庭, ひとり親家庭等の世帯の中学生を主な対象に, 高校受験等に向けた学習会を行った。北学習会は立命館大学衣笠地区BBS会を中心とした学生ボランティアの協力を得て, 上京学習会は, コーディネーターを中心にさまざまな大学の学生をボランティアに迎え, 主体的に運営できるように支援した。

6. 利用促進・発信・広報に関わる事業

(1) 自習室

○青少年が集中して勉強するために, 登録制で自習室を開放した。登録時に施設や事業を紹介する等ワーカーとの会話が生まれ, これをきっかけに他の事業に参加する等の流れが見られた。

(2) 広報充実事業

○大学の授業内でセンターの取り組みについて説明し, 事業のチラシ等を近隣中高の全校生徒配布を実施した。

(3) ロビープログラム(センター利用者を巻き込む事業)

○掲示型のロビー企画から, 大掃除や納涼祭等イベント型のロビー企画までさまざまな形で若者と関わる機会をもつことができた。

7. 少年非行の解決・軽減に向けた取り組み

(1) 非行少年等立ち直り支援事業(京都府青少年課と連携)

○京都府の「立ち直り支援チーム(ユースアシスト)」に協力し, 家庭裁判所に送致され係属中の少年を参加対象にして, 月1回の地域清掃活動を行った。

<行事一覧>

事業名	実施期間	回数	参加者/のべ数	実施場所等
こども自然・暮らし体験クラブ				
ミーティング, 下見, ふりかえり等 プログラム	通年(週1回)	85	38/Vo274	北センターほか
	5・7・9・11月	4	26/Vo28	北区小野郷ほか
地域で始めるボランティア				
清掃活動	通年(第1土曜日)・随時	14	12/Vo179	紫明通り
イベント参加・協力	随時	8	1879/Vo57	北センター 北センター周辺
ごぶSAT				
ミーティング, 準備作業, ふりかえり等 プログラム	通年(月4回)	34	64	北センター
	通年(月4回)	44	308/Vo64	北センターほか
サンタクロースプロジェクト				
ミーティング, 準備作業, ふりかえり等 プログラム	10月～12月	32	15/Vo100	北センター
	12月24日	1	28/Vo8	北センター周辺
卓球フリータイム	通年(月2～3回)	30	277	北センター
自習室	通年(ほぼ毎日)	314	5163	北センター
ロビープログラム	通年(月に1～2回)	22	1634	北センター
北区つながるワークショップ	11月～1月まで計4回	4	8	北区役所
北コミまつり				
ミーティング, 準備作業, ふりかえり等 当日	9月～12月	35	134/Vo60	北センターほか
	12月15日	1	2054/Vo29	北センター
北中学生学習会(ミーティング等含む)	通年(毎週木曜日)	59	193/Vo192	北センター
上京中学生学習会(ミーティング等含む)	通年(毎週月曜日)	54	216/Vo145	上京区役所

II-3. 東山青少年活動センター

全体の動向

継続的に取り組んでいる創造表現事業を通して、多様なジャンルで活動している青少年からの相談が増え、支援機能があることや主体的に発信できる空間としての認知が広がっている。また、事業の活動報告冊子作成や全国の文化会館へ送付される冊子への取材や掲載等、より広がりのある活動、情報発信ができた。

1. 創造表現活動事業(センター固有テーマ事業)

(1) 創造表現事業

① 演劇ビギナーズユニット

○演劇初心者対象の演劇セミナーで、最後に修了公演を実施。演劇の創作過程の中で、参加者それぞれがコミュニケーションスキルや社会的な行動様式を身につけたり、自分が受け入れられる体験や、様々な価値観と出会うことで他者を受け入れたり、価値観の幅を広げる体験の機会を提供した。中高生の参加も増え、大学生や社会人も含め、幅広い年齢層、多様な背景をもつ青少年が参加したことで、より多様な価値観と出会う場になり、参加者による主体的な意見や関わりが見られ、個人や集団としての成長につながった。

② ダンススタディーズ1

○初心者を対象とした集団創作ダンスのプログラム。特に中高生の参加がメンバーの半数以上得られたことで、参加者同士の意見交換やグループを意識した行動やコミュニケーションの重要性への気づきや変化が多く見られた。また、開催期間中の他のダンス事業(「からだではなそう」)への単発参加によって、多様な発想を取り入れ、創作の手がかりとなる機会を提供できた。

(2) 障がいのある若者の表現事業

① 東山アートスペース

○知的な障がいのある青少年の余暇充実や、表現活動を通じた交流から生まれる成長を目的とした創造・創作活動の場を提供した。申込者数は2コース共に定員に達した。障がいの有無に関わらず参加者やボランティアの青少年同士が創作を楽しみながら交流できる空間を作ることで、1年間定期的な活動を続けることができた。また、今年度は事業発足時からの活動を振り返る報告冊子『いつもの日曜日』を発行した。

② からだではなそう～表現活動へのお誘い～

○知的な障がいのある青少年を対象に、余暇充実や交流から生まれる成長の機会を目的とし、体をつかった表現活動の場を提供した。今年度は過去最多の参加者数となった。言語的なコミュニケーションに捉われず、かつ自由に表現ができる空間作りをナビゲーターやユースワーカーが意識することで、参加者が安心して活動できる機会を提供できた。また、今年度はアシスタント育成にも取り組み、若手表現者の協力を得ることができた。

(3) 若者文化発信事業

① ステージサポートプラン

○創造活動室を使った発表。公演活動へのサポートと、公演準備のための個別相談を実施した。今年度の初めには、Theatre E9 Kyotoが新しく開館、その結果、参加グループ数は微減した。また、YU'Zの述べ利用グループ数はほぼ前年度並みとなった。例年、全体の約4割程度を占める初心者団体に対しては、事前の研修等、スキルアップをしながら進めた結果、舞台や照明関係の経験が少なくても、安心して活動ができる場だという評価が得られている。

② ロームシアター京都との連携事業「未来のわたしー劇場の仕事ー」

○創造活動の現場のプロフェッショナルであるロームシアター京都で、全館を活用して行われるフェスティバル型の自主事業と市内各文化会館で巡回公演された海外アーティストの公演に関わる機会を提供した。音楽や演劇・ダンスを中心にした、全く別の専門性を持ったアーティストやスタッフから事業の内容と業務について事前にレクチャーを受け、その上で現場に入り業務を実際に体験した。また、交流会やふりかえり等にユースワーカーが入ることで、若者同士の交流促進や、相談等につなげた。

③ センター協同事業(若者文化発信事務局事業)「ユスカル！」

○昨年に引き続き、2回目となる、センター協同のもと若者文化イベントを盛大に開催した。7つの青少年活動センターの利用者が企画・参加したブース運営、ロームシアター京都との連携事業からのボランティア参加や公募で集まった文化活動を発信したい青少年やアーティスト、多くの表現者が参画した。また、京都市の融合事業として、同日開催の【京(みやこ)の「わ！」】に参画し、全国の文化会館へ送付される『地域創造』vol. 45の当日取材、特集「パブリック・プログラムを考える」に6ページにわたり掲載されたことで、若者文化に着目した京都市の事業展開やユースサービス、ユースワーカーの認知につながった。

2. 居場所づくり支援事業

(1) ロビープログラム

- 学校や家庭以外での居場所を求めている青少年に対して安心できる居場所の提供をロビー空間で行った。参加者が集いやすく活動しやすい環境を整え、かつ、ロビーで気軽に参加でき、他者と交流できるプログラムを多数実施した。内容を問わず、一定の頻度で更新されていることで、利用者に「行けば何かがある」という認知が広まり、それをきっかけにユースワーカーが関わる仕組みが機能していた。また、総合庁舎内の関係機関との連携や、他団体の協力で利用者が幅広い情報に触れることのできる空間を提供することができた。

3. 自主活動を支援する・担い手育成に関わる事業

(1) 自主活動支援事業

① 自主活動支援事業

- 新歓ダンス公演・アート作品展示・鍾馗づくりワークショップ・演劇ワークショップ、ダンスワークショップ・映像作品制作・落語公演と、これまで実施したジャンルにとらわれずに新たな相談や企画が持ち込まれた。また、他事業の参加から、本事業へつなげることができ、より自主的な姿勢で活動へ取り組む姿が見られた。

(2) 担い手育成事業

① インターンシップ受け入れ

- センター事業や業務に、京都女子大学の社会教育実習生や京都橘大学生を6名受け入れて指導した。

② センター事業における各ボランティアの育成と支援

- ステージサポートプランのボランティアチーム【創活番】では、学校との連携事業の中高生演劇部へのサポート、表現者やスタッフを目指す青少年を対象としたテクニカル講座を担い、集団として成長し、お互いの力を発揮しながら協力して、次代を担える若者を育成できつつある。

4. 地域交流・連携・参画に関わる事業

(1) 地域交流・連携・参画事業

① 学校連携事業

- 中劇研スタッフワーク講座、高劇連演劇講習会、中学校演劇部合同公演、高劇連中部支部合同公演「冬劇祭」に青少年ボランティアが参画できる機会の提供として、テクニカル講習の実施やリハーサル・公演のサポートを行った。

② 地域交流事業

- ダンスNPO 主宰の自己肯定感向上プロジェクト推進会議議長や、東山区はぐくみネットワーク実行委員会への参画、東山図書館や東山区保健センターとの連携した企画を実施した。

③ 運営協力会の運営と連携

- 7月に運営協力会を開催し、事業報告や計画の説明及び委員の補充を行った。平成29年度から1名欠員であったため、センター事業にナビゲーターとして参画していただいている大学講師で画家の方に、委員として運営協力会へ参画いただくこととなった。また、会社の経営統合に伴い、他都市に移転するとのことで会長が辞任された。

5. 相談・支援の取組

(1) 相談・情報提供事業

- 相談を受ける基盤として、ロビーワークの実施や、各事業での参加者・ボランティアとの関わりから、信頼関係の構築を図った。また、事業参加をきっかけに、サポートステーションや支援室等と情報共有やリファーを行った。

(2) 就労支援事業(京都若者サポートステーションとの共催事業)

① じぶんみがきダンス

- ダンス小作品を参加者みんなで創作していく中で、自己と向き合う力を高め、自己表現力やコミュニケーション力を培う等、就労意識を高めるきっかけを提供した。継続的に参加した者は、積極的にひとと会話することができるようになっていたり、多くの言動を通して精神的に随分とタフになっているように感じられた。

(3) 中学生学習支援事業

① 東山中学生学習会の運営(中学生学習支援受託事業)【再掲】

- 経済的な問題等から、家庭で勉強する環境が整いにくい状況にある中学生に学習支援を通じた進学をサポートや安心して過ごすことのできる居場所機能を青少年ボランティアと共に提供できた。

6. 利用促進・発信・広報に関わる事業

(1) 利用促進・発信・広報に関わる事業

① 情報発信および広報活動の充実

○利用者増と稼働率アップのためのアクションの1つとして、各部屋別の利用方法をわかりやすく例示した、一般向けの利用案内を作成し広報を行った結果、年間の一般利用の回数が増加。また、ホームページのトップページを作り変え、視覚的に瞬時に情報がつかめるようにしたところ、新規の来訪者数が伸びた。

② 利用促進事業

○利用促進事業は全体的に数が落ち込んでいる。自習室、フリータイムは根本的に広報を見直し参加を増やしていく必要がある。創造工作室を使ったフリータイム(ヒガシヤマ DE ものづくり)では、窯が使用できなくなったことによって近隣の陶工専門学生を含め、作陶作業の利用者が大きく減った。また、音楽スタジオを使ったリハーサルへの支援や創造工作室を使ったシェアアトリエは7月から広報したが、音楽スタジオを使ったリハーサルへの支援の利用は得られなかった。シェアアトリエには12月～3月の期間中に3グループが利用し、店舗でのライブイベントへの参加や店舗での個展の実施、芸術祭に向けた創作活動を行った。

<行事一覧>

事業名	実施期間	回数	参加者／のべ数	実施場所等
演劇ビギナーズユニット	5月～9月	60	17(2, 635)	自主練習・公演入場者含む
ダンススタディーズ1	12月～3月	38	11(536)	自主練習・公演入場者含む
東山アートスペース	6月～3月	17	32(409)	ボランティア数含む
からだではなそう	6月～3月	17	23(301)	ボランティア数含む
ステージサポートプラン	通年	156	8, 673	ボランティア数含む
ステージサポートプランYU'Z	通年	183	1, 137	
未来のわたし	年1回(7・8月)	6	16(141)	
ユスカル!	11月16日	1	4, 998	出展・出演・スタッフ含む
ロビープログラム	通年	8	269	
ロビーギャラリー	通年	309	10, 360	同時期複数開催含む
学校連携事業	通年	23	2, 403	
地域交流事業	11月	2	262	
自主活動企画支援	通年	7	1, 071	来場者・見学者含む
自習室	通年	166	439	
フリータイム	通年	150	154	
ヒガシヤマDEものづくり	通年(週2回)	99	36	
焼成窯一般開放	通年(月1回)	4	38	
じぶんみがきダンス	年2回(9月・10月, 1月)	10	70	
中学生学習支援	通年(週1回)	49	602	ボランティア数含む

Ⅲ-4. 山科青少年活動センター

全体の動向

地域とともに青少年の育ちを支えるために、食をテーマとした地域での居場所づくりネットワーク(子ども食堂)をすすめた。「べる」事業では、今年度より「べるサポーター」の活動を開始し、広報物作成や新たなパートナー獲得を青少年ボランティアとともにすすめた。「やませいフェスタ」では、べるパートナーと青少年の出店者が交流できる機会をつくった。

1. 地域交流・連携・参画に関わる事業(センター固有テーマ事業)

①地域通貨「べる」(自主事業)

○青少年が、活動を通して職業観を得る、「誰かの役に立つ」喜びを感じることができる機会として、また地域の大人たちと青少年が出会い「地域で青少年の成長を支える」土壌づくりの一つになることを目指して実施した。「べるサポーター」(青少年ボランティア)が活動を行った(計23回)。今年度から、ふれあい“やましな”2019 区民まつりでも「べる」が使えるようになる等、徐々に地域への理解が広まっている。

※外部活動場所新規:2件, 外部利用店新規:7件, 総支給額:63,000べる(昨年比+16,050べる), 総利用額:59,900べる(昨年度比+23,500べる)

②やませいフェスタ(「ぐるっとふれ愛まちフェスタ in 山科」への参画)

○センターで活動する青少年グループ・青少年育成団体・「べるパートナー」等協力団体等に呼びかけ、出店ブースを充実し、ステージ発表、シアターワーク京都そらまめ協力による「お化け屋敷」を実施した。

○新聞折込みチラシ(近隣4,000部)の効果もあり、2,000名を超える集客を得た。(2,697名)

○「ぐるっとふれ愛まちフェスタ in 山科」と同日開催し、実行委員として連携・協力した。

③運営協力会との協働事業

○役員会や総会、合同事業を実施開催した。

○会員が、青少年の活動や現状を知る懇談会を実施した。

地域に活動拠点をつくりたいと考えている青少年グループ(A-CRUISER)によるストリートダンスの披露や地域通貨べる、やませい食堂(子ども食堂)事業のボランティアによる活動紹介を行った。地域の大人でもある会員との意見交換をする機会となり、青少年にとってもよい刺激となった。

④地域協働・ネットワーク事業

○青少年・子どもに向けて取組む団体等の活動への助言や情報提供、運営協力、活動機会の提供、広報協力等サポートを行った。(日本語教室「たちばな倶楽部」、BBS アフタースクール、山科区母子寡婦福祉会、宿題かたづけ隊(京都橘大学 大久保教授、石山助教))

○青少年支援に対する理解や認知を広め、地域で青少年を育む基盤づくりに繋がるようネットワークを形成、また関係機関(山階児童館・更生保護女性会・香東園等)との連携、協働等をおこなった。

○学習支援「勸修中学校学びサポート」を協働しすすめた。(特定非営利活動法人 山科醍醐こどものひろば・山科区社会福祉協議会・勸修中学校)

○食をテーマとした地域での居場所づくりネットワーク「まちのちゃぶ台ネットワーク山科」の一員として取り組み、青少年・子どもを支えたい想いを持つ人同士の新たに出会い繋がるための「場」づくり、「大人カフェ」を実施した。(3回)(※4回を予定していたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策により1回中止。)

2. 居場所づくり支援事業

①ロビーワーク

○青少年にとって居心地のよい場づくりを工夫した。ユースワーカーやボランティアとの関わりを通して、青少年が様々な背景を持つ人と出会い、多様な生き方を知ることで自分を見つめる機会になることを目指し行った。日常の関わりから関係づくりをすすめ、情報提供や相談に繋がった。

②余暇充実事業(青少年の自主企画含む)

○毎週土曜日に、気軽に参加できるイベント(スポーツ, 食, 美術, 工作, 音楽, 芸術)を実施した。

○ダンスグループ「A-CRUISER」による、ダンス教室を実施した。

○バレンタインの時期にバレンタインウィークを実施した。

○休日の午後や平日の放課後に、スポーツルームにおいて青少年が予約なしで利用できる「フリータイム」を設けた。中高生・青少年の新規利用の開拓および定着を図った。

○日祝日及び長期学休期間中、中高生がスポーツルームの利用ができる時間帯「中高生タイム」を設け、中高生の活動場所の確保と利用促進に取り組んだ。

③やませいカフェ・やませい食堂

(1)やませいカフェ「Mountain Blue」

- 毎週火曜日の放課後、青少年ボランティアの協力を得て軽食等の調理・販売を行い、憩いの場となる空間をつくった。地域通貨「べる」が活用できる機会にもしている。(前年度より+6, 550べる利用増)
- ボランティアの参加も定着し、安定的な運営ができた。

(2)やませい食堂

- 「まちのちゃぶ台ネットワーク山科」(子ども食堂ネットワーク)の協力を得て実施した。(第3土曜日月1回)
- ボランティアスタッフの参加問合せや登録者数も増え、各回平均10名が担う安定的な運営ができた。また、プログラム内容やメニュー等スタッフの提案が形になり、青少年スタッフ中心に運営していくための基盤づくりができた。

④自習室&自習室カフェ

- 空き部屋を確保し、自習室として開放した。
- 利用時にたまるポイントカード方式の「自習室カフェ」を実施することで、利用者との接点となり、事業参加や相談に繋がった。前年度よりも気軽にロビーで利用する青少年が増えた。

3. 自主活動を支援する・担い手育成に関わる事業

①やましな未来プロジェクト

- 気軽に参加できるボランティア活動の機会を増やすことができた。(地域清掃活動やふれあい“やましな”2019区民まつり、事業「ユスカル！」等)
- 前年度から受け入れを行っている「京都橋大学文学部キャリアゼミボランティアコース」は、今年度5名参加した。既存のプログラムへの参加のほか、「山科区のことを知る」研修(全2回)で地域についても学び、自主企画を考えて実施した。回を重ねる毎に積極的に意見を出し合い、自主的に動くことができた。

②ボランティア活動促進やインターンシップ・実習生の受け入れ

- 各事業のボランティア募集を行った。大学・高校・市施設・関係団体への郵送のほか、大学での授業、地域会議での広報等を積極的に行い、またHPやActivo(ボランティア募集サイト)、SNSでの発信を積極的に行った。特に、Activoと京都橋大学の授業での広報からの問合せが数多く参加に繋がった。
- 地域通貨「べる」に関しては今年度初めてサポーター(青少年ボランティア)の登録に繋がり、ボランティアとともに事業をすすめることができた。
- ボランティア研修を企画実施した。中学生学習会:ケースワーカー研修(7月)・生活保護制度の研修(12月)、子ども食堂・カフェ(フェスタ出店者):衛生管理や調理実習(9月末)を実施した。

4. 相談・支援の取組

①情報提供・相談

- 青少年の相談件数・回数ともに昨年度より増加した。特に「親子・家族との関係」「恋愛・恋人との関係」の相談が多かった。(青少年:199件500回(前年比+44件177回)／その他:25件27回(前年比0件-7回)内容としては、「余暇の過ごし方」・「親子・家族との関係」・「恋愛・恋人との関係」の相談が多かった。
- 外部機関との協力連携をしながら、個別対応、サポートを行った。(山科区役所 子どもはぐくみ室、児童相談所、京都市東部障害者地域生活支援センター「らくとう」、児童養護施設等との情報共有等)

②山科中学生学習会(中学生学習支援受託事業)【再掲】

- 対象となる中高生を受け入れ、高校進学や日々の学習支援を青少年ボランティアとすすめた。高校進学後の利用者の参加もあった。

③サポステ連携事業「働く前のコミュニケーションワーク」

- 京都若者サポートステーションの登録者等を対象に、ストレッチや発声練習、インプロビゼーション(即興演劇)の手法を用いて、自身をふりかえり気づきを得るワークショップを開催した。2クール(8月・11月)実施し、いずれも定員を超える参加となった。

5. 利用促進・発信・広報に関わる事業

①利用促進・広報

- 新中学1年生(山科区内全員配布)に向けたセンターリーフレット、クリアファイル、ニュースレターとともに新中学1年生の入学時期にあわせて配布した。
- 山科区内の中学校・高校に対し、ニュースレター(やませいだより)を定期的に送付し、各教室への掲示を依頼した(年間5回)。

- Twitterの運用をすすめ、ブログやホームページ、Facebook、LINE@等を定期的に更新した。
- ボランティア募集サイト「Activo」掲示等は定期更新を行いボランティアや参加者増に繋がった。

6. 少年非行の解決・軽減に向けた取り組み

①ユース・アシスト(京都府との連携事業)

- 京都府青少年課が実施している「少年の立ち直り支援事業」(ユース・アシスト)に協力し、定期的な学習支援や面談のための場所提供を行った(会議室・ロビー)。

<行事一覧>

事業名	実施期間	回数	参加者／のべ数	実施場所等
地域通貨「べる」(自主)	通年参加・ボランティア活動	109 23	参加者:41 ボランティア:7 ／延227	山科センターおよび周辺地域
やませいフェスタ (ぐるっとふれ愛まちフェスタ) ボランティア説明会	本番11/4(準備11/3) 地域会議6月～11月 10/17・20・21(他個別対応有)	5 1 3	当日参加:延2,697 スタッフ・出店者:121(実数) 33(実数)	山科センター／会議は周辺施設
地域協働・ネットワーク事業 (日本語教室「たちばな倶楽部」, ひまわり食堂, 母子寡婦福祉会山科支部等) ・勸修中学校区こどもの学びサポートプロジェクト	通年 毎週木曜日	44 14	延305 延252	山科センター・京都市立勸修中学校・香東園TSUBAKIその他
まちのちゃぶ台ネットワーク山科 大人カフェ打合せ 大人カフェ	11/25(世話人会) 5/16・10/20・2/27	1 3 3	7 5(実数) 29(実数)	山科センター・中央センター
余暇充実事業 ・自主企画(京都橋大学和洋菓子研究会) ・Yico(特別企画含む) ・Yicoダンス教室 ・フリータイム ・中高生タイム ・バレンタインウィーク	通年 ・6/23・7/20 ・毎週土曜日 ・12/14・17, 1/28, 2/11, 3/10 ・通年 ・日祝日・長期休暇期間 ・2/9～2/14	2 51 5 226 134 6	70 延436 20(実数) 延1,890 延486 19(8組)	
やませいカフェ	通年 毎週火曜日 ※祝日10/22, 2/11にスタッフ自主企画として実施。	53	利用者:832 ボランティア:26/185	
やませい食堂	月1回第3土曜 夏休みは、毎週土曜日 ※3月は新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため中止。	15 15	利用者:431 スタッフ:39/152	
ボランティア研修	9/28	1	15	
自習室	通年	368	3,370	
自習室カフェ	通年	53	78	
やましな未来プロジェクト	5月～1月(ミーティング含む) 5/26, 6/15, 7/6・20, 8/10・11, 10/27, 11/16・23, 12/22・28	33	48/303	センター近辺地域 安祥寺川・山科中央公園・香東園やましな他
中学生学習支援事業	通年 毎週金曜日	117	660(ボランティア説明や面談含む) 中高生参加者32(中学生16+高校生16)/313	
サポステ連携事業「働く前のコミュニケーションワーク」	①8/13・16・19・20 ②11/12・15・19・22	5	①12/40 ②13/49	山科センター・中央センター
ユース・アシスト (京都府との連携事業)		30	83	

Ⅱ-5. 下京青少年活動センター

全体の動向

年度末はコロナウイルスの影響も受け、利用者数は86,518名(前年度比-8,215名)となった。

前年度に引き続き、青少年のサークルや京都市外から企業・団体による施設利用があり(稼働率は70%前後)、また旧センター周辺の商店街や崇仁地域、下京区内の地域団体・行政機関からのお祭りやイベント等の協力依頼がある。ボランティア事業に関しては、継続的な関わりを持てる青少年の新規獲得が課題となっている。

1. スポーツ・レクリエーション事業

①まちロゲイニング

- レクリエーション活動での楽しさや人との出会いを体験する機会として、スマホを活用し、SNSとの親和性もあるまちあるきイベント(フォトロゲイニング)を実施した。
- 企画から当日運営までを、インターンシップの大学生、ボランティア(大学生)とともにいった。

②トレーニングルーム事業(ジムガイダンス)

- ボランティアである「ジムアドバイザー」の協力体制のもと、トレーニングルームを初めて利用する人を対象に、第1・3・5月曜日午後7時半から、ガイダンスを実施した。HPや利用者の口コミ等による参加が多かった。

③しもせいチャレンジ☆キッズ

- 小学生向けのスポーツ・レクリエーションプログラムを年5回、青少年スタッフが企画・実施した。花背山の家での宿泊プログラムの際には参加者・青少年スタッフの参加は多いものの、新規青少年スタッフの参加がないのが課題。

④レクリエーションインストラクター養成講習会(京都府レクリエーション協会と共催・再掲)

- 京都府レクリエーション協会が主催する講習会に関して施設提供と広報協力を行った。

2. 居場所づくり支援事業

①ロビー交流プログラム

- 学校や家庭等、普段の生活から離れた場所で身心を休めたり、他者との関わりから気づきを得られる場所として、幅広い若者が居心地よく過ごせるためのロビー空間づくりを行った。
- 掲示板を用いて、利用者同士およびワーカーと交流できる「アンケート企画」、また、ロビーに設置された質問箱に投稿された疑問や相談ごとに対して職員が回答する「なんでも質問」、そして、利用者が集いお茶を飲みながらワーカーや他者と交流できる「しもせいカフェ」を実施した。

②自習室

- 自習のできる部屋を毎日開放した。主に近隣の高校生の利用が多く、テストや受験期間には満席になることもあった。
- 進路の悩みや報告、家族間での悩みを職員に打ち明ける利用者もおり、単なる自習利用を超えた関係性を築くことができた。

3. 担い手育成に関わる事業

①プラン・ドゥ(自主活動促進の事業)

- 若者の「やってみたい」を叶える企画を後押しし、相談や施設提供、広報等の協力を行った。
- 商店街との交流できる企画を実施するボランティアグループ「チーム街スタ」の活動と、センター利用者による絵画展の2件に関して、ミーティング場所・会場の提供や広報のサポートを行った。

②ワンデイ・ボランティア

- 初めてでも気軽に参加できる単発のボランティア活動の機会を提供した。
- ドッジボール大会への審判派遣、地域の祭りやイベントの運営補助・ブース出展、京都マラソンの沿道整理等、スポーツ・レクリエーションに関連した様々な機会を提供することができた。

③しもせいボランティアネットワーク

- しもせいで活動するボランティアの研修と交流イベントを2回実施した。
- しもせいボランティアOBによるゲストトークを行い、横だけでなく縦のつながりを作ることができた。

4. 地域交流・連携・参画に関わる事業

①しもせいネットワーク(共催・協力事業)

- 崇仁マガジンの発行:崇仁発信実行委員会で作るフリーペーパーの発行に際し、当センターの紹介ページを作成、掲載した。
- 第43期Sリーグ:Sリーグ実行委員会(全72チーム・約1,000名が登録)が主催する市内最大級のバレーボールリーグ戦に協力。青少年を含む市民に対し、「する」だけでなく「運営する」スポーツの機会を提供した。
- レクリエーション・インストラクター養成講習会:京都府レクリエーション協会が主催するレクリエーションの資格取得に向けた機会を提供した。

②しもせいフェスタ

- センター利用者に活動発表の場を提供。日ごろの練習の成果を発揮できるステージ発表や関係機関・育成団体による活動紹介ブースを実施した。
- 現・旧センター周辺の商店の飲食物を販売したり、広告協賛金として寄付を集めたりすることで、地域との協力の機会や、認知度向上の機会となった。

③運営協力会

- 運営協力会を通じて地域の団体・機関、学校等とつながり、相互の情報交換、センターの活動を発信した。

5. 相談・支援の取組み(就労支援を含む)

①中学生学習支援事業「洛西スコーレ」

- 洛西支所、京都経済短期大学、青少年の健全育成を考えるフォーラムと連携し、洛西地域で毎週1回の学習会を運営した。
- 毎週5～8名程度の学習者およびボランティアの参加があり、安定した学習会運営を行うことができた。学校や家庭での悩みについて打ち明けてくれる学習者がいたほか、ボランティアにとっても居場所となっていることがうかがえた。
- 年1回、洛西スコーレ運営会議を行った。

②中学生学習支援事業「下京学習会」

- 高校受験に向け、学習の習慣づけや基礎学力の向上等を目標に、ボランティアスタッフと毎週1回の学習会を運営した。
- 学習を通して、ボランティアスタッフとの関係性を築くことで、学習者にとって居場所的な働きにも繋がった。また、学習者5名程度の参加に対してボランティアも毎週6～8名程度の参加があり、安定した運営を行うことができた。
- 半年に1回ボランティアの振り返りの場を設けた。自身の考えを発信することと、相手の考えについて知ることによって、ボランティア自身の学びや成長に繋がるきっかけの場となった。

③アジプロ下京～あたまと身体でじっかんするプログラム～(サポステ連携事業)

- 「事務作業」を通じた就労体験として、事前研修・体験実習(活動のふりかえり含む)・事後研修を組み合わせて実施。ふりかえりでは、参加者から自身が取り組みたい課題への想いが語られた。

④相談事業

- 青少年に情報提供を行い、相談を受け、個別的な支援を行った。
- ロビープログラムの「何でも質問」に寄せられた相談に回答。年間で192件の投稿があった。

6. 利用促進と市民認知の拡大につなげる情報発信と広報

①広報事業

- HP、Facebook等、各 Web 媒体を使い分けながら、センターでの取り組み状況や、日常の様子を外部に発信した。
- 事業を横断したボランティア募集チラシやセンタークリアファイルを作成し配布することで、センターの認知度向上に向けて働きかけた。

②しもせい筋トレ部

- 高校生年代を対象に、平日の利用できる時間帯を限定し(朝、昼、夜の3つから選択)、トレーニングルームの利用促進を図った。
- 近隣の高校(通信制を含む)へのチラシ配布を行ったが、広報の遅れが原因か登録は14名と昨年より10名程度減少した。

<行事一覧>

事業名	実施期間	回数	参加者のべ数	備考/実施場所等
1. スポーツ・レクリエーション事業				
①☆まちロゲイニング	通年	2	19	企画側にインターンを3名受け入れた。
②トレーニングルーム事業(ジムガイダンス)	通年	22	129	アドバイザー54名を除く
③しもせいチャレンジ☆キッズ(プログラム)	通年	5	84	青少年スタッフ:40名 小学生:44名
しもせいチャレンジ☆キッズ(ミーティング等)	通年	77	310	
④レクリエーションインストラクター養成講習会(京都府レクリエーション協会と共催・再掲)	7~10月	4	64	下京青少年活動センター会議室で実施されたもの
2. 居場所づくり支援事業				
①ロビー交流プログラム	通年		1, 287	(内訳) アンケート企画 延べ902名 なんでも質問 延べ192件 しもせいカフェ 延べ193名
②自習室	通年	416	2, 328	
3. 地域交流・連携・参画に関わる事業				
①しもせいネットワーク(共催・協力事業)	通年		6, 320	(内訳:延べ人数) Sリーグ 延べ6, 185名 府レク 延べ64名 グループへの活動機会の提供 延べ8グループ 71名
②しもせいフェスタ	12/8	26	606	来場者, ミーティング含む
③運営協力会	8/2	1	13	
4. 担い手育成に関わる事業				
①プラン・ドゥ(自主活動促進の事業)	通年 3/20~22	38 9	458 9	街スタ 来場者, 定例ミーティング含む 絵画展 ミーティング含む
②ワンデイ・ボランティア	通年	10	1, 295	来場者(ふれあいまつり他), ミーティング含む
③しもせいボランティアネットワーク	10/29 3/21	2	39	
5. 利用促進と市民認知の拡大につなげる情報発信と広報				
①広報事業	通年			主にネットを利用
②しもせい筋トレ部	通年		87	登録:14名
6. 相談・支援の取組み(就労支援を含む)				
①中学生学習支援事業「洛西スコーレ」	通年	49	585	コーディネーター1名・ボランティア13名 登録・学習者25名登録
②中学生学習支援事業「下京学習会」	通年	38	510	ボランティア登録:14名 学習者登録:10名
③アジプロ下京~あたまと身体でじっかんするプログラム~(サポステ連携事業)	5~6月 2~3月	25	42	

Ⅱ-6. 南青少年活動センター

全体の動向

ロビーですごす若者とユースワーカーが共に活動する「ロビーワーク」を中心に事業を展開した。これまで行っていた、フリーマーケット等の大きなイベントを取りやめ、若者の声を活かした、小さなプログラムを年間通して実施するとともに、今年度増加した自習室利用者をカフェ事業等に誘った。その結果、常連利用の中高生や施設利用の大学生の事業参加が増加した。一方で、新規利用者層を来館にとりこむことは、課題として残った。

1. 10代の若者の居場所づくり事業

①ロビー喫茶(みなば・ふらり亭)

- 中高生年代が購入しやすいよう、一食50円程度で軽食を提供する「みなば」を実施し、常連の中高生がよく利用した。運営は、大学生を中心としたボランティア、実習生と職員で運営した。ボランティアによる運営が維持できるほどの実働数を得られなかったことは課題である。
- 月2回、夕方から夜にかけて、みんなで夕食をとる若者食堂:ふらり亭を実施した。運営に地域の大人の手をかりることができた。

②たまり場project

- センターで過ごす若者が気軽に参加できるプログラムの実施を行った。
- ロビーボランティアが、運営を担い、若者たちと一緒に場をつくりあげた。
- ロビー利用の中高生の「やってみたい」を拾い小規模のイベントを複数実現した。

③フリータイム&自習室

- 予約をせずにスポーツルームを使用できる時間を設定。地域の中高生たちの利用が多かった。
- 自習室の提供を通して、これまでセンターに足を運んだことのない層の利用を促せた。

2. 居場所づくり支援事業

①清掃活動ボランティア「ひろいな」

- 月に一度センター周辺の清掃を行う、ゆるやかに参加できるグループ活動の場を提供した。
- 清掃ルート等は自分たちで話し合い、自分たちで活動をつくることを大切に実施した。

②ボランティア体験事業「ふらっとb」

- 一日限定で、地域のおまつりやイベントに参加するボランティア体験事業として実施
- 気軽に参加できることが好評で、例年を超える参加があったと同時に参加者の満足度も高かった。

③スモールステップ「ひだまり部」

- 他者との関わりに困難を抱える若い女性が、気軽に参加できるグループ活動の実施を想定していたが、登録人数が少なく、十分な活動を展開することができなかった。

3. 地域交流・連携・参画に関わる事業

①ロビー喫茶一口マスター

- センター50周年事業時に実施した寄付の額を変更し、引き続き寄付を継続するための取り組みを行った。
- 寄付の活用については、具体的な取り組みを描くことはできなかった。

②南区ワカモノネットワーク

- 南区で行われるさまざまな行事に参加し、若者に関わる人たち、地域づくりに取り組む人とのネットワークづくりを行った。
- 特定の職員が固定して関わるのではなく、センターとしてつながりを作っていくことが今後の課題

4. 担い手育成に関わる事業

①ボランティア育成

- 「たまり場」「ロビー喫茶」「学習支援」の運営を担うボランティアの募集、育成を行った。ミーティングや活動後のふりかえりを通して、ボランティアの参加動機を確認しつつかれらの成長を支える取り組みを行った。
- 定例のミーティングに加え、センター外の研修の参加を促すことも同時に行った。

②インターンシップ&実習生受け入れ事業

- ユースワークの理解者を増やすこと、職業としての魅力を伝えるために、市内の大学からインターンシップ、実習生の受け入れを行った。
- ふりかえりの時間を大切に、参加者とそれぞれの気づきを大切に学びあうことを大切に運営を行った。

5. 利用促進・発信・広報に関わる事業

①ニュースレターの発行

- 取り組みを紹介する「みなみだより」を年4回発行し、学校や近隣の回覧板にて配布した。
- 広報物は学校に持参し、学校との関係づくりを大切にした。

②Web 媒体を活用した広報

- Webサイトの定期的な更新, Twitter, Facebookを中心としたSNSからの情報発信を行った。

6. 相談・支援の取組 ※就労支援, 学習支援事業含む

①個別相談・グループ相談

- センター利用者の個別の相談やグループ運営に関する相談にのった。
- コンサルテーション, 事業所内でのグループバイズや外部研修等を通して, 相談の力量をあげるための取り組みを行った。

②セクシュアルヘルス事業

- 若者が気軽に「性」について語れる場として, バレンタイン時期にレンアイカフェを実施した
- 「障がいのある若者に関わる支援者のためのセミナー」は, 関係機関との連携で企画, 広報をすすめていたが, コロナ対策の一環として, 開催は延期となった。

③就労体験事業「アジプロ」 ※サポートステーションとの連携事業

- ロビーのカフェ機能を利用し, 就業体験として, カフェの運営を行った。
- 運営にあたっては, 地域の高齢者の協力を得, 事業への理解を深めてもらっている。

④学習支援

- 週1回の学習支援事業の実施と運営のためのボランティア育成を行った。
- 参加歴の長い中学3年生が安定して参加した。
- ボランティアの実働人数の安定に時間がかかり, 新たな学習者の受け入れを円滑に行えなかった。

⑤月に一度のごはん会「いこいな」

- 毎月第3土曜日に, 施設退所者が集い, 食事を共にしながら交流できる場をつくった。
- 家族, 恋愛, 仕事のこと等を気軽に話せる, 社会生活を営む上で必要となる情報を伝える場となった。
- 南青少年活動センター以外の職員が参加できる機会をもった。

<行事一覧>

事業名	実施期間	回数	参加者／のべ数	実施場所等
ロビー喫茶	原則毎週火・木曜日	79	述べ607名	ロビー
みんなで一緒に晩ごはん「ふらり亭」	第2・4火曜日	21	述べ136名	ロビー
たまり場project	通年・随時	109	述べ2, 356名	ロビー 他
自習室	通年・ほぼ毎日	313	述べ1, 283名	和室
フリータイム	通年・ほぼ毎日	292	述べ2, 939名	スポーツルーム
ボランティア体験事業「ふらっとb」	通年, 随時	6	述べ1, 826名	南区関係機関等
スモールステップ「ひだまり部」	原則毎月第1, 3土曜日	27	2名／述べ42名	
清掃活動ボランティア「ひろいな」	原則毎月第4土曜日	15	17名／述べ64名	センター周辺
実習生・インターン受け入れ	通年, 随時	23	6名／述べ51名	ロビー 他
ボランティア育成事業	通年, 随時	15	77名	ロビー 他
中学生学習支援事業	原則, 毎週木曜日	59	19名／述べ405名	大会議室
退所者交流事業「いこいな」	毎月第3土曜日	12	10名／述べ90名	料理室, 和室
就労体験事業「アジプロ」	6～7月・11～12月	24	9名／220名(喫茶利用者含む)	ロビー 他
ユースアシスト	通年, 随時	18	述べ58名	中会議室, 多目的室, 料理室
セクシャルヘルス事業	通年, 随時	3	述べ240名	館外イベント等

Ⅱ-7. 伏見青少年活動センター

全体の動向

事業の見直しがさらに進み、多文化共生とロビーワークの強化に注力した1年。ニーズはあるがアプローチ不足であったり、体制が不十分で参加者の受け入れができなかったり、注力したからこそ見えてきた課題があった。ボランティアや関係機関と連携を強化し、さらなる事業の発展に努めたい。

1. 多文化共生事業(センター固有テーマ事業)

①JTL (Japanese Talking Lesson)

○外国にルーツを持つ方と日本人の若者が気軽に話し合える場として、事業を設置。日本語での日常会話をを行い、お互いの文化を知り合う事業となった。今年度は、日中働いている20代の多文化ルーツの若者の参加が多い傾向にあり、勤労青少年の居場所としての色合いも強かった。

②にはんご教室

○毎週土曜日(第1週目を除く)、伏見青少年活動センターにて実施。青少年が外国にルーツを持つ方に対して日本語を教え、学習者とボランティアが互いに多文化理解に努めていた。今年度は、ボランティアに留学生が参画し、「日本人」だけではなく、より多文化な教室となった。

③海外にルーツを持つ若者のための居場所事業「SWITCH」

○月1回、第1土曜日に中学生～22歳までの海外にルーツを持つ若者のための居場所事業を展開。保護者の都合やその他の事情によって渡日した若者が参加した。その他、隔月で事業運営会議を実施。渡日・帰国青少年のための京都連絡会(通称:ときめき)と、情報交換を行った。

2. 居場所づくり支援事業

①ロビーアクション

○ロビーの活性化に向けて、「ふしみんなポイントカード」や「カフェ」等、青少年が施設利用にとどまらないよう手軽に参加できる事業を実施した。その他、セクシュアル・ヘルス事業の一環として「ふしみんな恋愛カフェ2020」を実施し、「恋みくじ」や「理想の告白」等を展開、多くの若者の参加があった。「つながりカフェ」では、地域の若者がカフェや展覧会を実施し、挑戦の場を用意することができた。

3. 地域交流・連携・参画に関わる事業

①ふしみんなまつり

○2年目となる「ふしみんなまつり」を開催。普段、センターを利用する人(ボランティアスタッフ、育成団体、関係団体・個人)が一堂に会するイベントとなった。今年度は開催内容を1日に凝縮し、「ステージ発表」や「手づくり市」等、多くの催し物を実施した。来場者数、盛り上がり等、前年度を上回り、盛況であった。

②カフェおせっかい

○伏見地区更生保護女性会と協力し、毎月第4木曜日に若者のための食堂を実施した。地域住民や近隣の中学生、高校生等が参加し、毎回20名強が食事をするという盛況ぶりであった。その他、ボランティアとしてBBS会(BIG BROTHER&SISTERS)の学生が参加し、青少年と交流した。

4. 担い手育成に関わる事業

①ボランティア育成・交流事業

○青少年ボランティアの年間を通じた募集、育成を行った。また、ボランティアが一堂に会する交流会を開催。活動に対する振り返りを丁寧に行った。

②実習生・インターンシップの受け入れ

○京都女子大学より1名のインターンシップ生を受け入れ、ロビーワークに従事した。

5. 利用促進・発信・広報に関わる事業

①フリータイム・自習室・ロビーパソコンの設置

○フリータイム:15時～18時(土日祝は不定期)にスポーツルーム A を軽スポーツができる場、火・木・土・日・祝日15時～18時に中会議室 AB をダンスができる場として開放した。

○専用自習室の他に、複数人で教え合いながら勉強できるグループ自習室として設置した。(ロビーの一角)

○ロビーに100円30分で使えるパソコンを設置した。

②ニュースレターの作成 Youth Diary@伏見

○3月に1号発行。来年度以降も使用できるよう施設や事業紹介、ボランティア募集等を掲載した。

6. 相談・支援の取組

①相談・情報提供事業

○相談情報提供163件249回と、前年度比較47件119回の増加となった。内、青少年は123件199回。

②サポートステーション職業体験事業

○未実施

③中学生学習支援事業 STEP

○対象世帯の青少年に毎週木曜日(長期休み期間は毎週2回)学習支援活動(愛称:STEP)を実施。

中学校3年生の登録者7名全員が高校へ進学した。

○伏見区担当課、及びケースワーカーを対象に活動内容についての研修会と意見交換を実施した。

④中学生学習支援事業 向島ぶらす

○向島ニュータウン内、藤の木小学校北側の城南保育園にて学習会(愛称:向島ぶらす)を毎週土曜日に実施。中学校3年生の登録者3名全員が高校へ進学した。

<行事一覧>

事業名		実施期間	回数	参加者／のべ数	実施場所等
□多文化共生事業					
JTL (Japanese Talking Lesson)		通年	36	72 (343)	ボランティア延べ167名, 登録30名, 学習者42名
にほんご教室		通年	73	(421)	ボランティア延べ251名, 登録20名
外国にルーツを持つ若者のための居場所 事業「SWITCH」		5月～3月	20	(58)	内ボランティア延べ2名 関係団体とのMTG含む
□居場所づくり支援事業					
ロビーアクション	ロビーワーク	通年	342	(2, 572)	ボランティア登録3名含む
	自主活動支援	4月～11月	45	(425)	カフェ企画:3件 青少年による企画:1件
□地域交流・連携・参画に関わる事業					
つながりcafe	カフェ・イベント企画	通年	29	(887)	
	CAFEおせっかい	4月～2月	16	(387)	内ボランティア28名
	縁庭	通年	56	(56)	
ふしみんまつり2019		12月	5	(1690)	内ボランティア延べ47名
□担い手育成に関わる事業					
ボランティア 育成・交流事業	ボランティア交流会	12月	1	30 (30)	
	ボランティア説明会	5月, 7月	2	4 (4)	
	ノーバディーズパーフェクト	4月～9月	40	(222)	内ボランティア延べ35名 登録18名
実習生・インターンシップの受け入れ					
□利用促進・発信・広報に関わる事業					
フリータイム・自習室 ロビーPCの設置	フリータイム	通年	635	(4, 808)	
	自習室	通年	572	(5, 439)	
Youth Diary@伏見		3月	1	—	広報物発刊の為人数なし
□相談・支援の取組					
相談・情報提供事業		通年	249	163 (249)	内相談129件 情報提供34件
サポートステーション職業体験事業		未実施	0	—	
中学生学習支援事業	STEP	通年 (3月は中止)	45	53 (416)	登録者数 学習者29名, Vo.24名
	向島ぶらす	通年 (3月は中止)	41	22 (230)	登録者数 学習者15名, Vo.7名
□地域連携事業					
地域連携事業		通年	1	9	運営協力会の実施

Ⅲ 京都若者サポートステーション受託事業（厚生労働省及び京都市委託）

無業状態の15歳から39歳までの学籍のない若者（※一部例外あり）に対し、職業的自立に向けた支援を行う同事業を厚生労働省及び京都市より委託を受け、運営した。全国的に有効求人倍率の上昇、完全失業率の減少という状況ではあったが、昨年度よりは新規登録者数・就職者数ともに増加した。一方で、就職に遠い層の登録も多く就職するまで時間が掛かるケースが増えてきている。

(1) 個別相談支援事業

① インテーク面談

○ユースワーカーがインテーク面談を実施。特に、緊張感が高い利用者に対して関係作りをしながら思いを整理し、事業とのつなぎの面談や専門相談を補完する形での個別相談等、間をつなぐための支援に取り組んだ。

② 専門相談・個別支援

○専門相談員である臨床心理士によるこころの相談（水・木・金曜）、キャリアコンサルタントによるキャリアの相談（火・水・金・土曜）。今年度よりキャリアの相談枠を増やすために隔週水曜日を追加し出口支援を強化した。

③ 定着・ステップアップ支援

○フルタイムの就労が難しい層が増えステップアップ支援重要となり、それに比例して相談件数は増加している。就労決定後の様子伺いや継続的なかわりと、途切れない支援を行った。

(2) 就活基礎力

① イマココ

○マインドフルネスの手法を用いて、今ここの自分自身の状態を客観視しつつ、心身のリラックスを体感し、緊張緩和するプログラムを実施。

② キャリコロ

○サイコロの出目に合わせた話をし、徐々に少人数から全体に繋げ、会話力アップを目指すプログラムを実施。アドバンスでは、キャリコロのような題目設定をせずに、全体で話す体験をする。また、参加者の意見を取り入れ、女性限定の「女子会」や職業体験参加者の体験談を聞く「座談会」等、さまざまな形式で実施。

③ 身体表現を用いたコミュニケーションワーク（インプロ）

○演劇から学ぶ、働くためのコミュニケーションワーク（山科）では、インプロビゼーション（即興演劇）の手法を用いて、表現することを体験的に学ぶワークを実施。また、即興でのダンスの手法を用いて、表現することを体験的に学ぶ、じぶんみがきダンス（東山）も実施。今年度はダンス（非言語）から演劇（言語）とつながりを意識した実施順にしたことから、連続して参加し、そのまま就労に結びつく参加者もいた。

(3) 就活実践力

① チートレ

○月1回の発送作業において、役割分担し作業する体験を通して、協働で働くことを体験的に理解し、実践できるための事業、チートレ（チームワークトレーニング）を実施した。また、協会の発送作業を手伝うプログラムも継続的に実施している。

② 自分を知って仕事に就こう

○過去の経験や現在の自己イメージを明確にし、将来ビジョンを作成し、実行可能なキャリアプランを作成する講座を実施。

③ 面接対策講座

○模擬面接の様子を映像でふりかえる作業を通して、面接の所作を学ぶ講座。面接で想定される質問に対する回答を考えたり、履歴書の書き方について、特に志望動機・自己PRを作成する際のポイントを学ぶポイントを学んだりする2つの講座を実施。

(4) 就業体験事業

① ゆず加工体験

○水尾地域において、特産のゆずの加工に携わる5日間の就労体験を実施。今年度は試験的に収穫の体験も実施。

② アジプロ「喫茶・事務体験」

○青少年活動センター内での就労体験プログラム（南＝喫茶、下京＝事務）を実施。丁寧に体験をふりかえるプロセスを踏むようにしている。

③職場体験

○青少年活動センターでの職場体験を実施。いずれのケースも受け入れ体制や丁寧なふりかえりを行い、次のステップへと進んでいった。また、中小企業家同友会の部会との連携において様々な職場見学を複数回実施した。

(5)保護者支援事業

①親こころ塾

○無業状態の我が子との関わり方について悩む保護者が、捉え方・かかわり方を学ぶプログラムを実施。

(6)サポステ周知事業

①地域出前相談会

○ハローワーク京都七条での出張相談を毎月実施。また、京都産業大学との連携による出前相談を令和元年度は卒業式に併せて3日間(9月卒業/3月卒業)実施。卒業後進路未決定者が参加した。また、通信制高校にて講話も実施した。

②広報事業

○従来のパンフレット・チラシ送付、HP/サポステネットでの広報を実施。各種ネットワークでのサポステ紹介依頼が多く、ネットワークを通しての広報も精力的に取り組んだ。

(7)機関連携事業

①内部連携

○協会としてセンターとは、サポステ利用者のボランティア受入れや情報の共有、職場体験先としての受入れを子若とは、サポステのプログラム利用や窓口からのリファー等情報共有及び連動した支援の仕組みを模索した。

②学校連携(大学・高校)

○前述しているが、京都産業大学、通信制高校での出前相談会を実施。進路未決定で卒業予定の生徒や中退者への支援を行った。

③他機関連携(就労・福祉・医療機関/企業/ネットワーク)

○就労移行支援事業所ネットワークでのサポステ紹介や各福祉機関と個別に連携を前提とした相互の取り組み理解のための協議に取り組んだ。また、中小企業家同友会・各支援機関との連携による、ネットワークに参加。サポステ対象層と中小企業とのマッチングから企業での実習、就労に繋がった。

(8)常設サテライト

①常設サテライト運営

○個別相談支援/就活基礎力/サポステ周知/機関連携、出張相談等の事業を実施。また、ネットワークに積極的に参加し、情報共有の機会を有効に活用する他、具体的な連携を模索した。

②常設サテライトにおけるプログラム実施

○前述の就活基礎力、就活実践力を元にしたプログラムの実施を行った。

<行事一覧>

事業名	実施期間	回数	参加者・のべ数	備考/実施場所等
身体表現を用いたコミュニケーションワーク	8月/11月 9~10月/1~2月	18	181	山科センター/東山センター
キャリコロ(アドバンス/女子会/就労体験談/サポカフェ含む)	4~3月	35	229	
イマココ	4~3月	11	80	
自分を知って仕事に就こう	8~9月	4	43	
面接対策講座「かたちを学ぶ」,「内容を深める」	4~3月	11	21	
チートレ	4~3月	13	51	
アジプロ(喫茶体験)	7~8月/11~12月	14	55	南センター
アジプロ(事務体験)	3月	6	15	下京センター
ゆずしぼり体験	11~12月	6	10	水尾地域
親こころ塾	7~8月	3	49	